

はりかこ

張籠作品展

前期—花器を中心に盛籠や菓子器他
後期—文箱や状差し、えもんかけ、Trophy Box 他

期間/前期 2025年10月1日(水)▷12月27日(土)

後期 2026年1月7日(木)▷3月28日(土)

曜日と時間/水曜と木曜は午前10時~午後3時

金曜日は午前10時~午後6時

土曜日は午後6時~午後8時

会場/張籠工房展示室

京都市山科区小山谷田町15の28

Tel. 075-594-2598

※ご来場の皆さんへ—ご来場の際、お電話頂ければ幸いです。曜日による入室時間が異なり、ぜひ連絡の程よくお願いします。



はりかこ

張籠は、竹で編んだ籠に和紙を張り、のりはタピオカ糊を使用。そして乾燥させてから和紙を張るをくり返し、しっかり張り付いたところへ紅柄を混ぜた柿渋で下塗り。仕上げに漆を何度も塗って補強した籠です。かつて呉服の発送のための荷具として製造され、大正から昭和と呉服商の巻戻しを入れる籠として、昭和後半は骨董商や美術商が品物を保管する籠として、またお茶やお華の先生がお道具を入れて使う道具籠として使われていました。

現在は、日用品として布巾立て(着立ど)、おつまみ入れやお皿各種の小品、花器各種から文籠(文箱)、そして盛籠や菓子器他をこしらえてあります。

公開します

その作りは、実際 どんな材料を使って、どんな道具で、

どんなふうにこしらえているの? という方に、ぜひ工房

へお越し頂きたいと思っております。出来るだけ

都合を合わせますので、事前にご連絡

よくお願いします。地図や連絡先

その他詳細は裏面をご覧ください。

